

平成26年度 教科指導における授業改善推進プラン(抜粋)

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善プラン	補充・発展指導計画
国語	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをもち、相手に分かりやすく伝える取り組みが必要である。 読解力をさらに身に付けさせるために、様々な文章を読ませる必要がある。 生徒が不得意にしている分野を中心に問題練習を行う必要がある。 漢字の確実な習得を図る指導を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文や話し合い活動を授業の中に盛り込み、表現力を身に付けさせる。 問題演習をする時間をもち、読解や解答のポイントを教える。 応用的な学習を授業に取り入れる。 漢字の小テストを引き続き実施し、確実に習得させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 書くことの指導を重点的にを行い、文章表現力や漢字、語彙力を習得させる。 根拠をもとに自分の考えを述べるができるよう指導する。 入試問題の傾向に沿い、問題練習を行う。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとに知識・理解を問うテストを行うことで基礎基本の定着を図ることを実施しているが、まだ、定着が不十分である。 授業の導入で見通しを立てるようにしたが、関心をひくための工夫が不十分であった。 ワークシートを活用することで、生徒が意欲的に学習に取り組むようになった。課題の進捗に差があるので、個に応じた対応が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> より一層の基礎基本の定着を目指すために、確認テストを細分化し、繰り返し行うようにする。 本時の課題を提示して、生徒の活動によってその課題を解決する問題解決型の授業を取り入れる。 生徒一人一人に具体的な学習目標を設定させ、授業内で確実に達成できるように支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 重要語句をきちんと漢字で書けるように、家庭学習として課題を出す。 テストの結果などをもとに、それぞれの生徒に応じた課題を用意し取り組ませる。 学習内容に興味・関心をもつことができるように、学習内容と関わる身近な事例を調べる課題を用意する。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本がなかなか定着しない状況もあるので、基本的な項目については特にポイントを押さえて指導することが必要である。 基本的な内容の扱いや応用問題の取り扱いを、一人一人の理解の状況を見極め、指導の工夫をすることが課題である。 個人の習熟度に合わせて、発問や支援を考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 例題などを絞り、丁寧に説明するとともに、問題も選択して一つを丁寧に扱う。 1時間の授業の中でそれぞれの学習到達目標を設定し、それを場合によっては一人一人に具体的に指示し課題解決をさせる。 発問に対する答えを文章表現させることを原則として、生徒の理解度をとらえ、扱う演習問題の時間や問題数を加減する。 学年によっては、入試問題を適切に扱っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> その時間の基本の補充問題を、その日の家庭学習の課題とする。 復習の方法、テストに向けての学習方法を具体的に提示する。 放課後などを使って補充学習を実施する。 応用問題の課題はそれぞれに選択できる形式に工夫する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な事項は、概ね定着している。計算が必要な実習に課題が残る。 実験や観察を行い考察させる過程を通し、少しずつ科学的な思考力が身に付いてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 練習をさせるとともに、語句等の効果的な学習方法を工夫する。 資料の読み取り、計算を伴う問題、実験操作については、個別指導を丁寧に行うとともに、自分で考えさせる時間を取り入れる。 実験や観察を行い考察することを継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期テストの前に小テストを行い、定着していない部分を中心に補充学習を実施した。 興味や関心を高めたり発展的な学習につなげるため、生徒自ら実験用具をセットさせたり、自分で考えた実験方法を行わせる。
英語	<ul style="list-style-type: none"> 疑問文・否定文の文法上の性質の違いは理解できるが、いろいろなパターンの疑問文に対して応答がやや混乱する。 授業中の発問に対して真剣に答え、積極的に答えようとする。ALTの授業では、コミュニケーションを楽しむことができる。 既習の文法事項や単語の知識が曖昧であったり、文構造の基本の理解も十分でない状況もあるので、指導を工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間で単語の練習と単語の小テストを行い、単語力の定着を目指す。 毎時間のウォーミングアップで、いろいろなパターンの英語の質問をし、応答の練習をさせる。 英語を使って会話する機会や、英文を書く機会をできるだけ多く与える。 日本語と英文の構造の違いを意識させながら品詞や文構造を理解した上で、読解や作文の訓練を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 単語テストの結果で定着していない生徒を、放課後の時間を使い個別に指導する。 自主学習の定着に向けて毎日家庭学習1ページと、3行英語日記を課題とする。 辞書の活用を指導し、自分で学習を進められるようにする。 基礎学習の時間を使い、既習内容の復習など基礎基本を定着させるためのワークシートに取り組ませる。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> どの領域においても意欲的に学習し、着実に力を付けている。特に器楽と鑑賞については、意欲的に取り組み、学習成果が上がっている。 歌唱と創作において、苦手意識などがみられるので、積極的に学べるよう指導方法を工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱の指導では、表現の創意工夫を考え表現することの意欲を高めたり、音の「高低」を理解させ歌唱時の発声について指導する。 創作では、学習形態を工夫したり、教師の見本を示すなど目標を明確にした指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ多くの楽曲や楽器に触れる機会を作り、豊かな表現力や感性を養う。 男子生徒が安心して声を出せる環境作りや歌への興味関心を高める指導を工夫する。
美術	<ul style="list-style-type: none"> 毎回、提示する目標を意識しながら、前向きに授業に取り組んでいる。一方で、集中力が続かなかったり、事前準備などが足りない状況もあるので、改善するよう指導が必要である。 作業ルールを意識して取り組みながら、発想を広げていくが、ルールの理解が十分でなかったり作業が遅い傾向にある。 予定時間内に作品制作が終わらない生徒もいたため、予定時間内で作品を完成できるよう指導することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の工夫に対し、声かけし良いところを認め、他の生徒達にも伝え工夫の積み重ねを促す。また、他の生徒の作品を見て感じる時間を設け、自分の作品への集中力と工夫を促していく。 作業ルールは、簡単な言葉に変えて伝え、こまめに作業の経過を見取り、声かけを多くする。 予定時間内に作品制作が終了するよう、時間配分と毎時間の課題と目標を見直し修正していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味関心を高めるために、励ましの言葉や作業アドバイスのかけ方を工夫するとともに、参考作品や材料、材料の活かし方などを紹介していく。 美術ノートを活用し、本日の目標や自分の作業の進み具合を確認させ、1時間の個人目標を立てて作業を進めていけるようにする。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動を苦手とする生徒もいるが、運動が好きな生徒が多く、一生懸命に取り組むことができる。一方で、助言を自分のものとして聞けない時もあるので、しっかりと基礎体力を伸ばし、今後の発展につなげたい。 何のために運動や練習をするのか具体的な言葉や見本を活用し、多くの運動体験をさせることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元により、個人の目標を明示させ、学習に意欲的に取り組ませる。 事前の板書で目標を明示するとともに、1時間続けて目標を意識できるようにこまめに声かけをする。 保健編については、教科書のまとめを使い、復習を心がけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> さらなる発展をもとめて、基礎体力を身に付けさせる。特に今年度は、下半身の柔軟性の向上に時間をかける。 自主トレーニングと反復練習を多く取り入れさせ、自ら進んで成長しようという心を育てる。
技術	<ul style="list-style-type: none"> 意欲をもち、積極的に授業に取り組んでいる。 作業の進捗の個人差に対応し、授業時間内で個々の技能能力に応じた定着を図ることが課題である。 技術への関心意欲を高め、最新技術に目を向けさせたり、自分の生活の中で意識して活用できることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒相互の学習や作業の状況を踏まえ、既習の体験的学習を多く取り入れ、課題解決の糸口を見つけて出す授業を行う。 実生活と関連つけた授業となるよう、生活に生かされる製作品品についての製作や実習を行ったり、生活に生かせる技術を調べようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな作業事例を参考に、生徒の共同作業を行わせる。加えて、お互いの良い点や良い作業を教え合う授業を行う。 繰り返し作業を取り入れた、体験学習を行っていく。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 身近な題材への関心度が高く自信をもち取り組んでいる。また、課題に対しても前向きに取り組むことができる。 知識を吸収するだけでなく、身近な生活と結びつけてその重要性に気付いていけるようにする。 少ない授業時数の中で内容を厳選し、知識を習得させ、技能につなげていくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動を取り入れ、生活と結びつけていけるような教材や話題を扱う。 学んだ知識を技能として生かせる授業展開に心がける。 映像資料や実物教材を用いて、少ない時数の中でもより理解が深まるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 製作では発展課題の時間で進捗の差を縮め、補充と発展の指導を同時に行う。 繰り返し作業させ、技能の定着を図る。 自分なりの工夫を増やしたり、発展的な課題に挑戦させたりして、知識・技能のさらなる向上を図る。